

JR発足から20年・国労東日本発足20回目となる節目の大会開催

安心して働くことができる健全な会社を!

「正常な労使関係の確立」・「安全・安定」輸送の確立



港区新橋5-15-5
 交通ビル部
 交日本藤樹夫
 日伊藤隆夫
 東伊藤隆夫
 組伊藤隆夫
 労伊藤隆夫
 鉄伊藤隆夫
 国伊藤隆夫
 発行責任者
 編集責任者

No.647 定価 20円

2006年

9月15日

第20回定期 大会特集号



国労東日本本部は、結成二〇回目となる定期大会を東京・芝にて開催した。

当面する、採用差別事件の早期全面解決を求める闘いはじめ、安全・安定輸送の確立、〇七春闘や労働条件改善に向けた闘いなど、一九名もの代議員による熱心な討論から運動方針を確立した。以下、今号は大会報告とする。

「東京を中心として輸送障害、重大事故が多発している。会社は私たちが求めている安全・安定輸送の具体的な要求について必ずしも認める方向にはなっていない。皆さんの事故に対する見直しと検証を含めて発言をいただきたい。」と副委員長の藤野司会挨拶から幕を開けた第二〇回定期大会。

七二名中七〇名の代議員、全構成員の出席を確立し、議長に佐藤長（東京）代議長、副議長に伊藤隆夫（東京）代表、冒頭、執行委員会を代表し演壇に立った伊藤委員長は五点到り

挨拶し（詳細は別掲）、とりわけ「配属差別事件、昇進差別事件の和解成立は、組織強化・拡大への展望を切り開くスタートラインに立つことが出来た。この二〇年を迎えることが出来たのも、国労差別に屈せず職場を軸に団結して闘いによって今日がある。情勢認識の一致を図り、職場運動の活性化を進めることから、強化・拡大の展望が切り開ける」と、強調した。

続いて、来賓の挨拶に入り、中央労働委員会・松井労働者委員、全国交通共済・宮坂事



機関紙表彰

「六乗務員区交流会」 原島透さん 「ろばた」 船清修さん
 「国労さがみ」 中沢啓三さん 「分会かべ新聞」 森川成三さん
 「スクラム」 村田彰さん 「支部日報」 山本禎さん

業本部長、国労東日本海渡・福田の両顧問弁護士、国労東日本家族会北沢副会長、国労本部吉田書記長より順次ご挨拶を頂いた。

議題は大会延期承認から始まり、選挙管理委員会の設置提案、経過報告・運動方針（案）の一括提案、協約・協定の締結提案、同承認まで進められ、機関紙表彰を行い午後の議事を休会。

午後の議事は、二〇〇六年度東日本委員の選挙告示から再開し、決算・監査報告、予算（案）の提案などの財政議題の後、経過・運動方針含めた一括討論（別掲）に入った。

討論は、中間答弁をはじめ、さみ予定時間をオーバーする一九名もの代議員よ

り活発な討論が展開され、高野書記長の集約（別掲）をふまえ、全体の拍手にて経過・運動方針（案）を承認・可決した。

その後議事は、予算（案）を承認・可決し、東日本委員の選出を行いスト権一票投票に入り、七

〇名の出席代議員全員賛成で確立した。時間の関係により、二本用意された特別決議と委員会宣言は議長団の取り計らいで短縮した提案で確立、最後に伊藤委員長の力強い団結ガンパローにて、闘いの意思統一とした。

来賓・メッセージ

- | 来賓 | |
|---------------------------------------|--|
| 中央労働委員会
労働者委員 松井保彦 | 東日本本部弁護士
弁護士 福田 護
弁護士 海渡雄一 |
| 家族会東日本連合会
副会長 北沢江利子 | 国労会館
専務理事 古関武三 |
| 業本部
事業本部長 宮坂義久
国労本部
書記長 吉田 進 | 全国交通共済協東日本
メッセージ
国労西日本本部
執行委員長 上村隆志
国労東海本部
執行委員長 山梨幸夫
株式会社印刷センター
代表取締役社長 野村昌弘 |

○五年度の機関紙表彰は一交流会、六機関紙の申請がありそれぞれ金一封を添えて大会表彰された。表彰内容は左記の通り。「支部日報」は二部門での表彰)

学習会継続部門

六乗務員区交流会（東京車掌区・国府津運輸区・熱海運輸区・静岡運輸区・沼津運輸区・伊豆急乗務員区）一七年間連続交流会開催

年間五〇号発刊部門

「国労さがみ」旧相模支部・五四号発行
 「スクラム」長野総合車両所支部・六三三号発行
 「国労新幹線」長野新幹線運輸所分会・五三三号発行
 「ろばた」東北工事事務所分会・五七号発行
 「分会かべ新聞」蒲田車掌区分会・八〇号発行
 「支部日報」秋田総合車両センター支部 一四五号発行

通算五〇〇号発刊部門

「支部日報」秋田総合車両センター支部・通算一、〇〇〇号発行

なお、「分会かべ新聞」は連続二回表彰、「ろばた」「支部日報」はそれぞれ連続五回表彰を達成し、次回大会での連続表彰に向けて期待の高まる結果となった。

代議員発言

新たな差別を作らせない(水戸) ためのチェックの取り組みを!!

竹内代議員(東京)



介護休暇、育児休暇はあっても無給では生活が不安。必要に応じて改善を求めたい。

「Fプログラム」もスタート。女性トイレが少ない、女性だけの休憩室がないなどが現実。

電子カルテ導入でタダ働きが多くなった。意見箱に入った声は病院も敏感。意見を入れてほしい。

石塚代議員(仙台)

スイカ導入で大きく変化。一人体制で休憩時間も券売機や接客で休めない。二ユーライフプランで早期退職が多く出たが、再就職はなく首切りの実態になっていく。

遺失物のオンライン化で二分する声。風規制による三三適用で超勤が多発など問題は山積。職場闘争が問われている。

安濃代議員(東京)

和解以降変化はきている。国労でも合格という確信につ



第20回東日本大会の質疑討論

入れを行なった。「突風は予測不能」では済まされ

西日本事故でも申し入れた。仕事総点検運動につなげ改善して行かなければならない。

羽越線土砂崩壊が起きた。問題点を整理し申し入れをする。

退職者のアスベスト特健の扱いの充実を。山崎代議員(東京)

昨年の試験では運転士、検修が全滅。「東労組の強い職場では和解しても合格しない」という風潮が

出来、今年受験状況が悪かった。包括的和解は理解するが挫折感や敗北感を与えないように納得できる和解が必要。拡大にも飛躍できる。

九条の会ネットワークを東日本に入れてほしい。山本代議員(秋田)

秋田支社は湯沢市など多くの反対の声を無視しリモートマルスを導入した。社員の士気も下がっている。「駅のあり方」やエリア異動など深刻な問題が山積。反合闘争の強化を。

属託、再雇用社員の組織化にむけ各級機関の努力を。国鉄闘争は一日も早い解決に向け本部に結集し強化を図ろう。

橋本代議員(仙台) 配転・出向差別は最低でも謝罪がほしい。耐用年数を超え

た車両の状態把握とそれに基づく検修体制の確立を求めたい。

原因が分からないままリフティングジャッキ作業を強いられている。

車両メンテナンス近代化など会社施策に対し合理化反対を明確にした取り組みを。

森代議員(東京) 常磐快速線の架線が切れ終日大混乱した。社員は暴言に耐え何も答えられない状況。「駅のあり方」

解明要求は貧弱である。正社員の採用を増やさせる、小規模駅の一括委託を認めない、何が起きても対応できる要員配置をさせる必要がある。

シニア雇用はJRへの再雇用などの要求を掲げるべき。病気で途中から欠勤する場合、年休扱いにするところがある。調査し改善を。

和解協議は昇進の検証・総括をきちんとすべき。バッチ事件まで一緒に扱う事は反対。

赤沼代議員(水戸) 四月富岡踏切グ

ループが廃止され、九月には水戸、土浦ベンディング廃止が提案された。通勤不可能な出向発令もされており、和解協議の中で扱



差別を作らせないためのチェックの取り組みを。リモートマルス、一人



昨年一二月二五日に発生した羽越本線脱線・転覆事故は鉄道輸送に対する不安と不信を招きました。労働組合としての存在も問われる重大事故でした。

首都圏を中心とした輸送障害が多発しています。また一月には伯備線、七月には東海道本線で保線社員の触車事故が発生しています。JRで発生している事故原因は、「規制緩和」による効率化、安全軽視によって発生していると考えます。

昨年の尼崎線脱線・転覆事故では、社員管理・教育と技術力維持・向上のあり方が大きくクローズアップされました。組合間差別も「安全・安定」輸送確立に向けてのインシデントを内包していると考えます。

東日本本部は、「正常な労使関係」の確立と「安全・安定」輸送の確立、「不公平感のない職場の確立」、「安心して働くことができる健全な会社を作る」ことに全力を尽くします。

そのために、「仕事総点検運動」、「安全総点検」の取り組みを強化し、要求の多数派を作り出す意志統一をお願いいたします。

不採用事件は二〇年を迎えないためにも、第七四回定期全国大会確認をもとに早期解決に向け東日本本部九地本が一致団結し闘うことを大会

勤務など合理化総合対策委員会を充実させ改善に向けた取り組みを。異常時と言えども連続乗務時間など一定のルールが必要。穴をあけても

委員長挨拶 情勢認識を一致させ 職場運動の活性化を!! 執行委員長 伊藤秀樹

の総意として確認をお願いします。〇四年九月の配属差別事件。昨年一〇月の昇進差別事件の和解成立を経て、出向・配転等四〇事件の和解調査が一二月から始まりました。そして四月にはバッチ事件の一括和解協議の提案が中労委からありました。東日本本部は、「差別の清算と解消」、「正常な労使関係の確立」、「国労組織の将来展望」を基本に据え対処していく考えです。

「究極の差別」を受けながらも現在も一万人以上の組合員が国労東日本に結集しています。配属事件、昇進差別事件の和解成立は組織の強化・拡大への展望を切り開くスタートラインとなつていきます。情勢認識を一致させ職場運動の活性化を進めることから組織強化・拡大にむけ自信を持つて奮闘することを強く訴えます。

小泉内閣は社会システムを大きく変化させ、拝金主義を蔓延させました。トヨタ、パロマなどの大企業による欠陥隠しはその象徴です。「憲法より日米安保」、「国民生活より大企業の利益優先」の結果、生活破壊が進んでいます。労働組合として憲法、教育基本法と合わせながら国民生活の「安全・安心」を守る闘いの強化を訴えます。

国労東日本本部はこれら諸課題の前進・改善に向けて先頭に立つて奮闘する決意を申し上げあいさつさせていただきます。

全く同じ仕事で10・20%のカット(東京) 同一労働同一賃金確立を!!

中山代議員(東京)

新橋支部では、駅頭宣伝行動、国会前座り込み、デモ行進など四日間春闘統一行動を行ってきた。

東京車掌区分会で、三名の仲間を東労組から国労に迎え入れるこ

中間答弁

山根法対部長

和解については謝罪の上解決金の支払いを求めている。この考えをしっかりと基本に据えて全力を上げたい。

勤務の途中に帰る方が年休で処理されていることについては事実について正確に教えていただき対処する。

高野書記長

女性社員の問題については婦人部と相談し本社に対する申し入れなども取り組み改善に向け進めていきたい。

一人勤務の問題については運輸協議会と連携を図りながら取り組みを進めたい。

遺失物管理システムに限らず教育問題は全員を対象に充実を図るべきと会社に求めてきていることであり、今後も求めていく。

とが出来た。月一回の組織対策会議を開催し、

新入社員の国労加入獲得に向けた取り組みを強化してきた。支部独自で、ポスターを作製し全分会で四月一日から一ヶ月間掲示し、組織強化・拡大

乗務員行路については近現代化についてはすでに申を提出してあるの

てはすでにプロジェクトを発足し要求の取りまとめに入っている。まとまりしだい組合員に返ししながら会社側に求めていく。

九条の会は、東日本本部として平和と民主主義と憲法を守るという立場で具体的に取

駅のあり方の問題については第一次の解明要求の交渉が終了した。今後第二次解明と基本を求めるとして交渉を取り組んでいく。

に向けたアピールをしてきた。
小黒代議員(高崎) 長野・新潟・東北方面の被災組合員支援の緊急カンパを取り組むことを提案する。

中期経営構想のもと、「合理化」が強行されている。国労高崎として、地域へのピラ配り、関係自治体への要請行動、新聞社へのリークを行い、社会問題化するよう反対行動をとってきた。本部において、撤回ということ

菊池代議員(盛岡) JR不採用事件の早期解決に向けバン行動を展開してきた。



青森県集会をはじめ、盛岡地方本部家族会と帯広闘争団家族会の交流会を取り組む。

労務政策の転換と労使関係の正常化に向けて、包括的和解を推進するべきと考える。

盛岡にリモートマルス拠点センターが発足し多くの問題が発生している。リモートマルス拠点センターと導入駅の交流会を東日本本部として検討して欲しい。

山田代議員(東京) JR不採用事件の解決に向けて、政府を交渉テ

ブルに引き出す課題、窓口を民主党の一部というレベルではなく、野党国対レベルに引き上げる課題など、大きな影響力を持つ東日本本部が国労本部への働きかけを強めることを求める。

パツチ事件を含む包括的和解については、当事者・分会が理解しやすい協議経過の説明、大方の合意と職場組合員の理解を得る努力が求められる。

渡部代議員(東京) 機械化「合理化」で、指定券売機MV三〇、リモートマルス、もしもし券売機Kaerukunが導入された。七駅の利用者からの苦情を中心

八王子支社は、駅の委託化を急速に進めている。委託化で業務を丸投げにするのではなく、職場に現職を残し経験豊富な元職のシニア社員を加え、国労として組織化していく取組みが必要である。

坂本代議員(水戸) 水戸地本は、事故を風化させない取組みとして、九三年水戸駅構内負傷事故を機に、毎年「命と権利を守る三・三〇集会」を継続している。

配転・出向差別等四〇事件及びパツチ事件の包括的な和解協議については、紛争解決に当たって過去の清算と謝罪を柱に粘り強く取り組むことを東日本本部に要請する。

坂口代議員(千葉) 内房線で、FA Xダイヤにない訓練列車が運行された。安全上問題である。団体交渉を開催して正式な通達文書を出すように要請した。



総武緩行線でレールが折れる事故があった。この間の輸送障害の多発で、早朝のラッシュ時間帯に要員体制を置く対応をさせられた。

八郷代議員(東京) 上野支部として、新採対策ピラを作成して配布した。国労として意識が変化してきていることが一番の成果である。

春闘時期に、現場長への要求申し入れ行動を展開した。日常的な行動が重要である。職場の要求運動をさらに強化していく。

西尾代議員(東京) JR東日本は、「ニューフロンティア二〇〇八」における今後の駅のあり方、首都圏の駅の人減らし計画を出してきた。常磐地区協では、二日間に

わたり四駅で宣伝行動を行った。パツチ事件は、九月の指導車掌の発令や昇進試験の最終合格者の状況を踏まえた一括解決の中で判断すべきである。

一〇四七問題で、運輸機構への地位確認を求め進めるといふことから、さらにJR採用という要求から適切ではない。



柏尾代議員(長野) 闘争団支援の物資販売で一五〇〇万円の売り上げと、年末に一・五トンの米を送ることが出来た。地本独自の行動で、五日間の街宣行動を取り組んだ。

和解協議が進み、三名の組合員が元職場に復帰した。国労パツチ問題をどう扱っていくのか明らかになり、欲し

で解明要求を行ない、安全が確認されてから作業を再開することを確認した。



第20回大会を締めくくった団結ガンパロー

- | | |
|---------|-------|
| 東日本本部委員 | 米田勝義 |
| 盛岡地本 | 阿部一久 |
| 菊池要悦 | 山本文英 |
| 秋田地本 | 曾我浩之 |
| 仙台地本 | 小檜山広幸 |
| 新潟地本 | 田澤忍 |
| 高崎地本 | 須藤光夫 |
| 水戸地本 | 赤沼廣行 |
| 千葉地本 | 坂口智彦 |
| 長野地本 | 粕尾 彰 |
| 東京地本 | 本間直樹 |
| 中山充郎 | 山田博樹 |
| 八郷清幸 | 小桜隆次 |
| 井草茂典 | 渡部和男 |
| 相笠清勝 | 中山正岐 |
| 馬橋博一 | 佐藤 治 |



書記長集約

国労としての姿勢を 職場で見せる中で 青年労働者の 心をつかむ闘いを!!

DLR基金、「連帯する会」などの取組みを強化し、中央・地方における取組み・団結を大事にし、気持ちを一つにして解決に向け具体的な取組みを進める。
安全・安定輸送確立、労働条件改善の取組みについて
重大事故が連続して発生し、JR東日本に対して国土交通省から輸送改善命令、関東運輸局から警告書が発せられた。こうした重大事故の背景には、メンテナンス体制の再構築、効率化「合理化」に大きな要因がある。今後電気関係の見直し要求、車両メンテナンス近代化に関する解明及び見直し要求、施設関係職場における緊急申し入れについて、申に基づき早期交渉開催に向けて全力で取り組む。

「ニューフロンティア2008における今後の駅のあり方」について、勤務体制の問題、駅の一括委託の問題、サービスと安全の問題、働く環境の問題も含めた要求書を作成しながら、早期交渉を取り組む。
二〇〇七春闘について
二〇〇七春闘に向けて、九月の賃金に基づく「生活アンケート調査」が取り組まれる。このアンケート調査による新賃金要求及び具体的方針については、東日本本部委員会で議論・決定し、取り組みを進める。

中労委和解協議と組織強化・拡大の取り組みについて
昇進差別事件の和解、それを受けた中での中労委からの提起に基づく配転・出向など四〇事件の和解協議、また新たな展開としてバッチ事件を含めた一括和解が進められている。国労として、解決金・謝罪を求めていく。地方代表者・関係支部代表者・弁護団との会議を設定しながら、状況について報告し、慎重に対応を図っていく。

今日の大会まで一一名の組織拡大がされた。若い人たちの心をどう国労に傾かせるかということに念頭に置きながら、組織の拡大に全力を挙げる。
アスベスト問題について
JR退職者の特殊健康診断、アスベスト使用車両の撤去、地方から寄せられている社宅でのアスベスト使用の問題など、地方本部・地区本部業務部長・職協代表者会議で具体的な取り組みについて意思統一を図りながら対応する。

政治闘争について
憲法・教育基本法改悪を頂点とした政治課題が山積している。各地方・地域における平和フォーラム、平和運動センターをはじめとする多くの労働者・国民とともに、政治的課題に対する運動を強めていく。来年実施される統一地方選挙・参議院選挙を全力で闘うことを全体で確認し合いたい。

JR不採用事件の早期全面解決を求める闘いについて
第七回全国大会で確認された、具体的な取り組みについても指示が発せられている。

二〇年間という長期の闘いをこの機に解決を図るといふ決意を持ちながら、この時期だからこそ闘争団を支える生活援助金カンパ、物資販売、

歴代委員長が参加 国労東日本本部結成20周年 記念レセプション開催

員・弁護団・中里中央共闘議長・家族会など八〇名が参加した。



芝・弥生会館で開催されたレセプション

冒頭挨拶した伊藤委員長は、「一九八七年二月二十七日、国労東日本鉄道本部」として結成し、「差別攻撃」が連日行われ「国労組合員の脱退」が続く中、弁護団と連携して、各地方労働委員会の場を通じて「不当労働行為」「差別」の実態を明らかにし、「差別解消」を求める闘いを組織され」と、当時の状況を振り返りつつ、現在の国労委における「一括和解に触れ、二〇一〇年を迎える今、和解の場を通じて当時の『差別の実態』をあらためて確認し組合員の『怒り』と『がんばり』があつて今があることを確認したい」と、決意を述べた。

懇親会では歴代委員長が当時の状況を紹介、スクラム組んでの国鉄労働組合歌合唱から、森岡青年部長の元国労運動の展開、前进了意を統一した



歴代
委員長
参加

がん予防・検診から治療まで、とことん支援!

健康支援金をプラス! 通院も入院も同額保障に!

健康応援団MAX

健康支援金
アベニール 株式会社

〒105-8004 港区新橋5-15-3 交通ビル3F
TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

Affac

アフラック (Affac) は、生命・火災・医療保険の総合代理店です。アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

詳しくは、ホームページや「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。